

令和6年度 綾瀬市立城山中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針		(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標		学校経営の方針
自立する生徒 ～ イメージ豊かに創造しよう ～ ・意欲を持って学習する人 ・正義を重んじる人 ・共に生きる人		安全・安心で、生徒が主体的に活動する学校づくりに努める ○ 地域社会の未来を担う、「自立する生徒」の育成を図る ○ 授業改善を推進し、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図る ○ 家庭や地域との連携を図る
今年度の重点目標		
◎ 目他を大切にする豊かな人間関係を築かせる ○ 自ら学び、考え、表現できる力を身につけさせる ○ 基本的生活習慣を身につけさせる		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「意欲をもって学習する人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	今年度も、生徒、保護者からは、約8割、教職員は約9割から「授業に意欲的に取り組んでいる」と評価を得ました。しかし、生徒・保護者の約2割となる「授業に意欲的に取り組んでいない」という回答を注視しなければなりません。教員がさらに、授業改善への意識を高め、生徒が主体的・対話的で深い学びができる授業づくりを目指し、確かな学力の向上に努めていきます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	集計結果は昨年度と比べ、生徒・保護者ともに「学校行事に積極的に参加している」という評価が大きく上回る数値となりました。とくに体育祭では、縦割り種目を増やしたり、合唱祭では、3学年の学年合唱を行うなど、生徒自身の学校行事への取組に対する充実感が現れたと捉えます。今後も健康面、安全面を第一に考え、感染症対策や熱中症対策等を講じながら、生徒が主体となり「生きる力を育むこと」を目指した学校行事や生徒会活動、部活動を実施していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「共に生きる人」を育てる指導を積極的に行っている。	集計結果から、今年度も生徒、保護者ともに、「人に対してやさしく接していると思う」という評価が9割を超えました。しかし「そう思っていない」と回答する生徒も1割いることに、着目していかなければいけません。学校全体が「やさしさ」で溢れるよう、ソーシャルスキルトレーニングや道徳教育の充実、効果的に協働的な学習を取り入れるなど、様々な取組を実践していきます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	9割以上の生徒が「学校生活を楽しく送っていると思う」と、肯定的な回答をしています。しかし、1割弱の生徒は「学校生活を楽しく送っていると思わない」と、感じています。ソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターなどの人間関係づくりに注力し、生徒に寄り添った指導を行っていきます。また、スクールカウンセラーとの連携を密にし、生徒の不安の解消や緩和だけではなく、全生徒が安心して学校生活が送れるようにも努め、生徒一人ひとりが充実した日々を過ごせるよう、しっかりと取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	保護者の回答について、肯定的な回答は7割以上あるものの、肯定的でない回答は2割以上ありました。いじめの早期発見・再発防止のため、予防的生徒指導のさらなる工夫を検討し、ねばり強く取り組んでいきます。今後も、迅速且つ適切な生徒指導を実践するとともに、人権教育を更に充実させ、人権感覚の涵養に努め、すべての生徒が学校生活を安全・安心に送れるよう、学校全体で取り組んでいきます。
6 保健管理	学校は、「健康な心と身体を育む」指導に積極的に取り組んでいる。	生徒、保護者ともに健康や体力に高い関心をもっていることがわかります。しかし、保護者の「あまり思わない」以下の数値が3割近いことに着目しなければなりません。学校は家庭における生徒の実態を把握し、家庭と連携しながら、食育・保健教育を進めていきます。また、薬物乱用防止や性教育等にもさらに力を入れ、そのことを便り等をおして発信することで、生徒の健康や体力により関心をもっていただくよう取り組んでいきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	今年度も昨年度同様、教職員の意識の高さが伺えます。今年度の反省を生かし、避難訓練や防災訓練の実施内容について見直しを行っていく等、学校全体で、より「実践的な訓練」を目指していけるように工夫します。また日常的な施設の点検・整備に取り組み、生徒が安全・安心に過ごせる学校施設を維持していきます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	教職員の生徒の支援に対する意識の高さが結果に表れています。今後も、さまざまな場面での情報交換を密にし、適正な支援ができるよう、工夫をしていきます。その上で、生徒がよりよい学校生活を送れるよう、生徒との信頼関係づくりに努めるとともに、生徒理解を一層深め、生徒一人ひとりを尊重した支援体制を整えていきたいと思います。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	集計結果から、約9割の教職員が肯定的な回答をしています。とくに「そう思う」と回答した教職員の割合が昨年度と比較し、倍増しました。このことは、校長の学校経営方針のもと、各グループが総括教諭を中心に円滑な活動を行ってきたことのあらわれだと考えられます。来年度も凡事徹底を意識し、職務にあたりたいと考えます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取り組みに力を入れている。	校内研究に対する意識は職員全体で昨年度より高まりました。今年度の取組をとおして、本校の教育課題や授業アイディアを共有することができたので、それらを精査し、来年度の校内研究の取組につなげていきます。また、本校教育目標である「自立する生徒」に対して、学習面ではどのようなアプローチが必要なのかを職員全体で考えていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	アンケート結果から、昨年度と比べ、保護者の「そう思う」が増加しました。しかし、保護者の「あまり思わない」と感じている回答も2割強ある現状に目を向けなければなりません。学校教育目標である「自立する生徒」の育成に向け、校内研究の推進や、教職員間・家庭との連携を密にするなど、学校全体で取り組んでいきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者からの「伝えられていると思う」という回答が、8割近隣の回答を得ています。これは、デジタル連絡ツール（C4th）に加え、学校と家庭が情報共有に努めた成果であると考えられます。しかし、一方で2割程度の家庭が「あまり思わない」に回答していることから、今後も、デジタル連絡ツールのさらなる活用や毎学期ごとの懇談会、保護者面談などをとおして、学校と家庭との情報共有や連携を充実させていく必要があります。

【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】

- 授業力の向上について
 - ・教職員は校内研究に前向きに取り組む、成果をあげている。アンケートの現状を受け止め、今後もさらに授業改善への意識を高め、生徒が主体的・対話的で深い学びができる授業づくりを目指し、教職員が主体的に研鑽に努めていく必要がある。
- いじめや不登校対策について
 - ・9割以上の生徒が学校生活に満足しているという結果となった。「学校生活を楽しく送っていると思わない」と回答した1割弱の生徒がいることから、日々の小さな変化を見落とさないように支援していく。また、ソーシャルスキルトレーニングをこれまで以上に活用しながら、生徒同士の人間関係づくりを支援していく。
 - ・生徒が安全で安心して学校生活を送れるように、保護者と連携し、信頼関係の構築に努めていきたい。
- 保護者との連携について
 - ・教員と保護者が直接会って話をする、家庭訪問や個別面談の機会は大切であり、今後も丁寧に連携をしていきたい。
 - ・学校から「情報が伝えられているとはあまり思わない」と回答した2割程度の保護者には、学校の取組を理解してもらう必要がある。そのためには、発信力が必要であり、引き続き「C4th」といったデジタルツールを活用して積極的に発信していきたい。
 - ・地域の方々や自治会などにも学校の取組を見ていただける機会を設定できると良いのではないかと。

※今回の結果や、いただいた意見を教職員で共有して、来年度につなげていく。